

商工会議所LOBO(早期景気観測)

— 2010年4月調査結果 —



2010年4月30日

業況DIのマイナス幅は4カ月連続で縮小

<結果のポイント>

- ◇4月の全産業合計の業況DIは▲45.7(前月比+3.6ポイント)と、マイナス幅が4カ月連続で縮小した。比較対象となる昨年4月の業況DIが▲70.4と、極めて低い水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に、着実に持ち直しの動きが続いている。しかし、大幅な需要不足によるデフレなどの影響により、水準は依然厳しい状況が続いている。各地からは、「消費の低迷に加えて、天候不順により厳しい状況が続いている」との声が寄せられている。
- ◇業種別では、建設業を除くすべての業種でマイナス幅が縮小した。建設業では、新年度に入り、公共工事の契約が大幅に減少し、前月より悪化したものの、その他の業種では、売上・受注とも徐々に回復の兆しがでている。また、すべての業種において、原材料価格の上昇は、悪影響を及ぼしている。
- ◇項目別では、仕入単価DIは、原油・原材料価格の上昇や天候不順に伴う農作物価格の高騰を背景に、前月に比べて10ポイント以上の大幅なマイナスとなり、3カ月連続でマイナス幅が拡大した。売上DI、採算DIは、建設業以外の業種でマイナス幅が縮小、資金繰りDI、従業員DIは、全産業合計ではほぼ横ばいで推移した。
- ◇先行きについては、▲39.1(前月比+3.4ポイント)と、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。建設業では、公共工事の増加が見込めず、厳しい状況が続く見通しだが、その他の業種では、売上・受注が回復傾向にあり、先行きに期待する声が寄せられている。しかし、原材料価格の上昇が今後の懸念材料になっており、先行き見通しには慎重な声が依然として根強い。

調査要領

○調査期間 2010年4月16日～22日

○調査対象 全国の409商工会議所が2653業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業:391 製造業:625 卸売業:241 小売業:744 サービス業:652

○調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況および業界として直面する問題等

※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりやを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

業況・採算:(好転) - (悪化) 売上:(増加) - (減少)

【本件照会先】 産業政策第一部 TEL:03-3283-7839 E-Mail:sangyo1@jcci.or.jp

<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>

＜産業別の特徴的な動き＞

産業別にみると、業況DIのマイナス幅は、建設業を除くすべての業種で縮小した。一方、マイナス幅が大幅に拡大した建設業では、依然回復の見通しが立っていない。

また、「仕入れ価格の上昇分の販売価格への転嫁」については、転嫁できそうにないとの声が6割以上である一方、実際に価格転嫁できているとの声は1割程度に止まっている。

雇用を維持するための方策については、「残業時間の削減を進めている」との声が最も多く、経費節減をして何とか雇用の維持に努めている企業が多い。

平成22年度の採用計画（来年度入社予定）については、全く計画していないとの声が5割強に及んでいる一方、景気動向に応じて非正規社員の採用を検討するとの声も3割近くあった。

各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ マイナス幅縮小 ↓ マイナス幅拡大

【建設業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↓	↑	↓	↓

- ・「公共工事の削減に加え、民間企業からの受注減少により引き続き厳しい経営状況」（建築工事業）
- ・「市発注の22年度工事が既に21年度に実施され、今後の発注が見込めない」（一般土木建築工事業）
- ・「住宅エコポイント制度の効果による受注増を期待」（建築工事業）

【製造業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↓	⇔

- ・「主力輸出市場の中国向け受注に回復の兆しが見えてきたのが明るい材料」（繊維機械製造業）
- ・「仕事があっても低価格で納期が短く、収益に結び付かない状況」（金属加工機械製造業）
- ・「仕事量は僅かながら増加傾向にあるが、4月より鋼材価格が値上がりし、採算面では厳しい状況にある」（自動車・同附属品製造業）

【卸売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	⇔	↓	↑

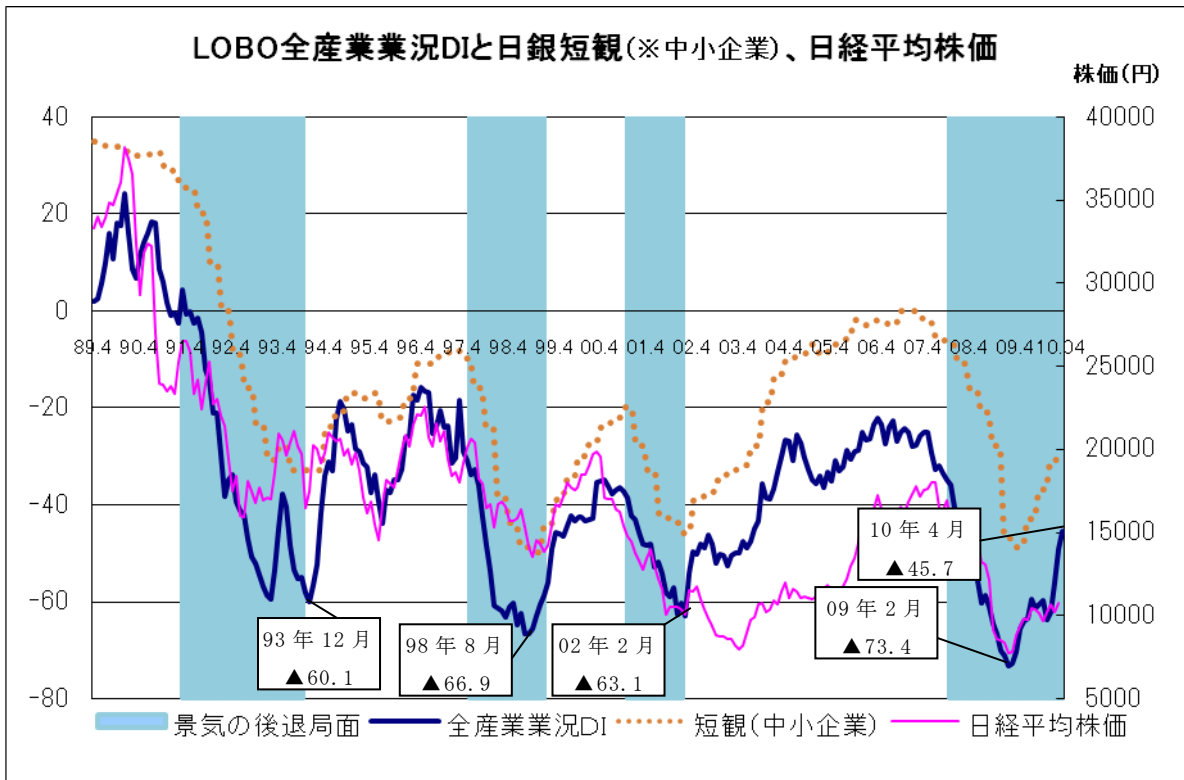
- ・「天候不順のため、野菜の価格が高騰し、売上の見通しが立てづらい」（農畜産・水産物卸売業）
- ・「大型工事の減少により、売上も悪化している」（建築材料卸売業）
- ・「自動車販売は、減税措置の効果により一定の水準を維持できているが、それが終了する10月以降は、反落するのではないかと不安がある」（自動車卸売業）

【小売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	⇔	↓	⇔

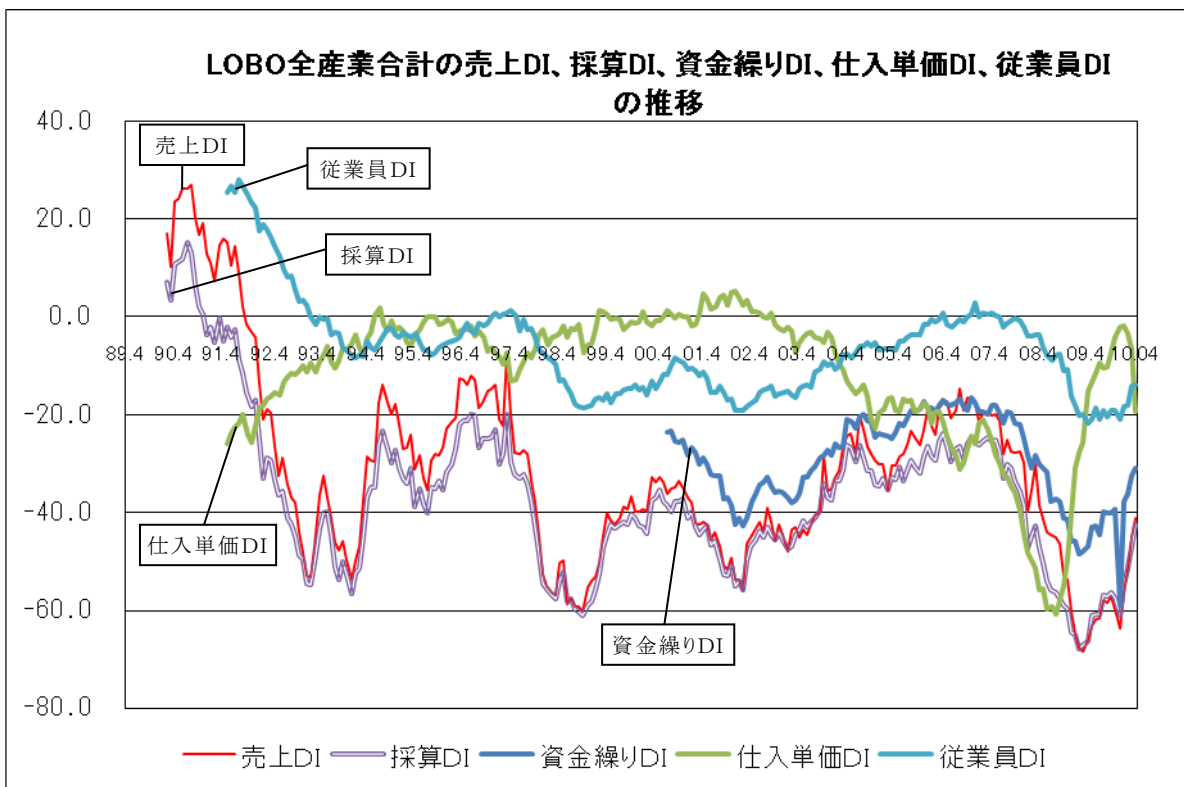
- ・「今月初めに好転の兆しもあったが、中旬の気温低下により、婦人衣料が苦戦」（百貨店）
- ・「石油販売業界は、原油価格の高騰に伴う販売価格の上昇から顧客離れが進み、益々厳しい経営状況にある」（その他の小売業）
- ・「天候不順により、高齢者を中心に客足が鈍くなっている」（商店街）

【サービス業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↓	↑

- ・「3、4月は歓送迎会の時期で需要はあるが、それが終わると見通しはあまりよくなさそう」（すし店）
- ・「天候不良による野菜等の値上がりで食材の仕入価格が上昇しており、利益の確保が難しくなっている」（旅館）
- ・「例年のない気温の低さから雪解けがかなり遅く、衣替えによるクリーニング量がなかなか増えない」（洗濯）



※短観 (中小企業) : 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

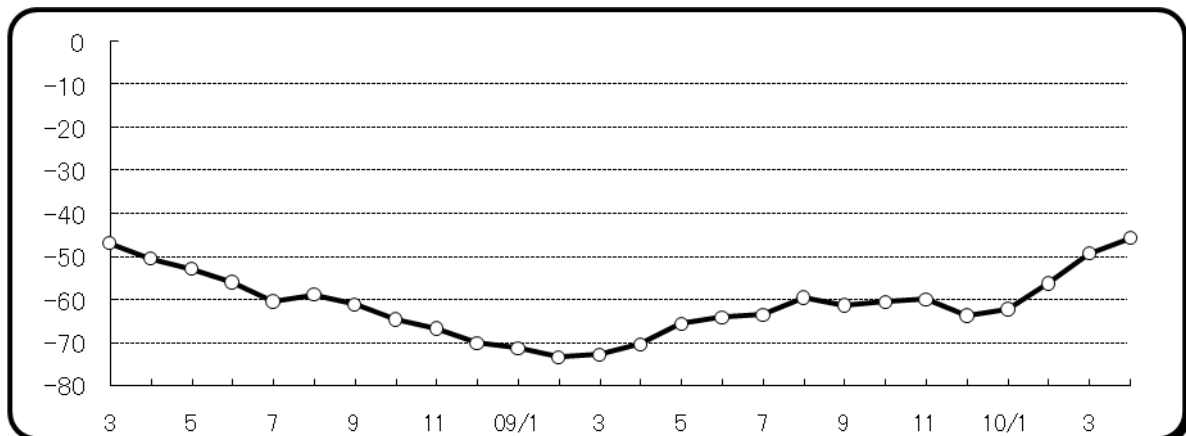
- 4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲45.7となり、前月から+3.6ポイントと、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。比較対象となる昨年4月の業況DIが▲70.4と低水準であったという要因はあるものの、製造業を中心に、着実に持ち直しの動きが続いている。
- 産業別にみると、建設業を除く4業種でDI値のマイナス幅が縮小した。業況が悪化した建設業は、公共工事の大幅な減少や仕入価格の上昇が、特に影響している。
- 向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲39.1と前月（▲42.5）と比べ+3.4ポイントとなり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、建設業を除く4業種でマイナス幅が縮小した。建設業では、今後の受注の減少や、仕入価格の高騰を懸念する声が多い。

業況DI(前年同月比)の推移

	09年		10年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	▲60.0	▲63.8	▲62.3	▲56.2	▲49.3	▲45.7	▲39.1 (▲42.5/▲60.3)
建設	▲55.5	▲62.4	▲63.9	▲61.4	▲52.6	▲59.6	▲58.3 (▲57.2/▲65.0)
製造	▲60.2	▲59.4	▲58.0	▲47.4	▲35.6	▲30.6	▲30.0 (▲35.1/▲60.7)
卸売	▲67.7	▲67.1	▲58.3	▲57.1	▲50.0	▲48.5	▲33.8 (▲39.1/▲53.6)
小売	▲64.3	▲71.7	▲69.5	▲62.7	▲57.7	▲50.9	▲40.9 (▲47.2/▲63.4)
サービス	▲54.8	▲58.6	▲59.1	▲54.5	▲52.1	▲45.5	▲35.8 (▲36.8/▲56.1)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
 () 内左側(網かけ)は前月(3月)の先行き見通しDI
 () 内右側は昨年4月の先行き見通しDI

《業況DI(全産業・前年同月比)の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

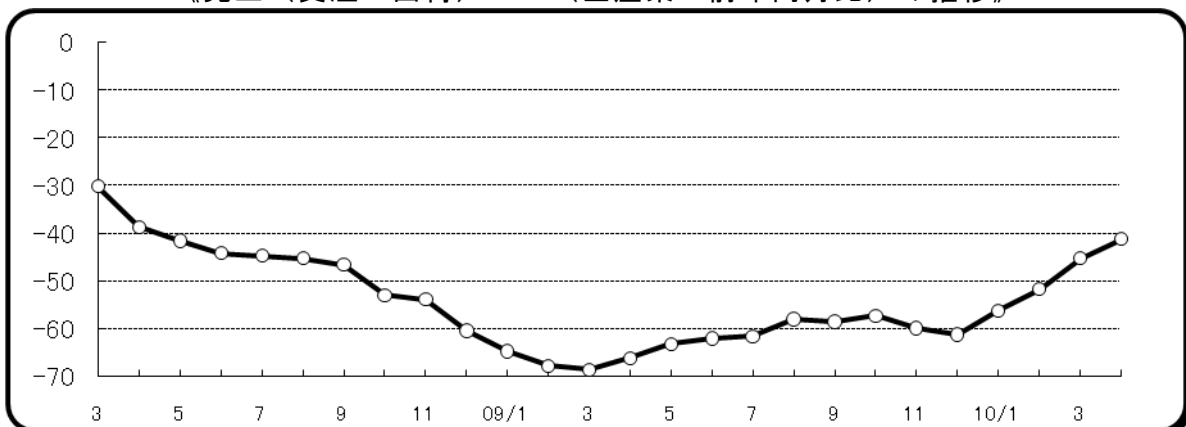
- 売上面では、全産業合計の売上D Iは、▲41.1となり、前月から+4.1ポイントと、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、業況が悪化した建設業を除く4業種でマイナス幅が縮小した。特に、製造業は、受注が徐々に増加しており、小売業では高額商品の売上が回復傾向にあるなどの動きが見られる。
- 向こう3カ月（5～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I（今月比ベース）が▲36.3と、前月（▲38.6）に比べ+2.3ポイントとなり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、製造業はほぼ横ばい、卸売業、小売業、サービス業の3業種でマイナス幅が縮小した。売上・来客数が増加するなど好転の兆しが見えることから、先行きに期待する声が寄せられている。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	09年		10年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	▲59.8	▲61.2	▲56.1	▲51.6	▲45.2	▲41.1	▲36.3 (▲38.6/▲55.5)
建設	▲54.5	▲54.6	▲52.1	▲46.4	▲44.7	▲59.5	▲60.3 (▲56.3/▲58.6)
製造	▲58.8	▲59.0	▲51.8	▲39.0	▲29.4	▲20.0	▲28.6 (▲28.8/▲54.6)
卸売	▲67.2	▲68.5	▲65.5	▲60.7	▲49.3	▲45.5	▲23.9 (▲32.8/▲43.5)
小売	▲66.0	▲68.2	▲61.5	▲62.3	▲56.4	▲48.9	▲36.4 (▲43.8/▲57.7)
サービス	▲54.2	▲56.7	▲53.1	▲52.7	▲47.6	▲40.4	▲33.0 (▲34.1/▲56.7)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 () 内左側（網かけ）は前月（3月）の先行き見通しD I
 () 内右側は昨年4月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

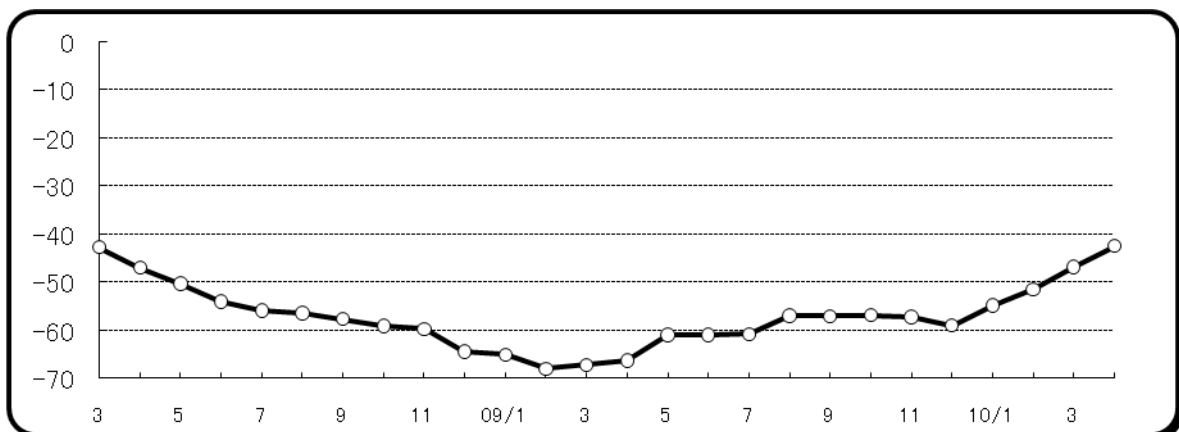
- 採算面では、全産業合計の採算D Iは、▲42.6となり、前月から+4.3ポイントと、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。産業別にみると、建設業を除く4業種でマイナス幅が縮小した。特にサービス業では、昨年同時期に比べ、売上・来客数が回復傾向にあるとの声が寄せられており、マイナス幅の縮小に寄与している。
- 向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲38.8と、前月(▲40.4)と比べ+1.6ポイントとなり、4カ月連続でマイナス幅が縮小した。
- 産業別に先行き見通しをみると、前月と比べ、小売業を除く4業種でマイナス幅が拡大した。原油・原材料価格の高騰に伴う採算の悪化を懸念する声が、各業種から寄せられている。

採算D I (前年同月比) の推移

	09年		10年				先行き見通し 5～7月
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
全産業	▲57.3	▲59.0	▲54.9	▲51.5	▲46.9	▲42.6	▲38.8 (▲40.4/▲55.6)
建設	▲54.5	▲58.1	▲58.4	▲58.6	▲51.6	▲57.7	▲53.1 (▲53.0/▲59.1)
製造	▲57.0	▲56.9	▲51.7	▲42.3	▲33.9	▲31.9	▲36.0 (▲35.2/▲55.3)
卸売	▲59.7	▲62.2	▲56.8	▲55.0	▲44.0	▲35.1	▲30.8 (▲30.6/▲44.9)
小売	▲62.4	▲61.7	▲58.0	▲56.3	▲54.2	▲48.5	▲37.9 (▲45.2/▲59.6)
サービス	▲52.4	▲57.2	▲51.6	▲49.7	▲50.6	▲39.8	▲36.3 (▲36.2/▲53.2)

- ※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I
 () 内左側(網かけ)は前月(3月)の先行き見通しD I
 () 内右側は昨年4月の先行き見通しD I

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	09年 11月	12月	10年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	▲ 39.3	▲ 41.8	▲ 37.9	▲ 36.2	▲ 32.6	▲ 31.1	▲ 31.0 (▲31.3/▲41.7)
建設	▲ 46.0	▲ 49.8	▲ 44.9	▲ 42.5	▲ 42.7	▲ 40.6	▲ 42.0 (▲42.2/▲50.7)
製造	▲ 44.1	▲ 48.7	▲ 44.2	▲ 37.3	▲ 27.6	▲ 26.0	▲ 31.1 (▲30.9/▲50.6)
卸売	▲ 34.1	▲ 32.6	▲ 26.9	▲ 26.5	▲ 25.0	▲ 25.6	▲ 24.2 (▲26.0/▲35.4)
小売	▲ 36.3	▲ 37.0	▲ 33.6	▲ 35.4	▲ 33.1	▲ 32.8	▲ 29.1 (▲29.7/▲34.9)
サービス	▲ 35.4	▲ 38.2	▲ 35.9	▲ 35.9	▲ 33.7	▲ 30.3	▲ 28.3 (▲28.3/▲36.7)

$$D I = (\text{好転の回答割合}) - (\text{悪化の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは▲31.1となり、マイナス幅は4カ月連続で縮小した。産業別にみると、卸売業はほぼ横ばいだったものの、他の4業種はマイナス幅が縮小した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、マイナス幅はほぼ横ばいで推移する見通し。産業別にみると、卸売業でマイナス幅が縮小、他の4業種はほぼ横ばいで推移する見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	09年 11月	12月	10年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	▲ 4.4	▲ 2.3	▲ 2.0	▲ 3.5	▲ 6.8	▲ 19.4	▲ 21.2 (▲10.3/▲10.4)
建設	▲ 14.1	▲ 10.6	▲ 12.4	▲ 12.3	▲ 11.8	▲ 26.5	▲ 30.1 (▲14.2/▲15.6)
製造	▲ 2.4	▲ 5.8	▲ 6.5	▲ 8.7	▲ 13.4	▲ 23.5	▲ 32.1 (▲18.8/▲7.3)
卸売	12.7	14.0	12.2	12.9	3.8	▲ 11.2	▲ 3.0 (0.8/▲6.5)
小売	▲ 1.9	5.0	6.5	4.8	2.3	▲ 9.8	▲ 10.1 (▲1.0/▲8.6)
サービス	▲ 10.2	▲ 8.5	▲ 6.3	▲ 8.5	▲ 11.5	▲ 24.7	▲ 23.9 (▲13.7/▲13.9)

$$D I = (\text{下落の回答割合}) - (\text{上昇の回答割合})$$

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは▲19.4と大幅に悪化、3カ月連続で上昇感が強まった。原油・原材料価格の上昇や、天候不順に伴う農産物価格の高騰が大きく影響した。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、3カ月連続で、前月と比べ上昇感が強まる見通し。産業別にみると、今後も仕入価格の上昇が続く見込みであることから、全ての業種で上昇感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 11月	12月	10年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	▲ 19.2	▲ 21.2	▲ 18.6	▲ 18.3	▲ 14.2	▲ 14.1	▲ 13.2 (▲13.2/▲19.0)
建設	▲ 27.4	▲ 30.3	▲ 28.0	▲ 24.0	▲ 24.4	▲ 27.6	▲ 29.2 (▲29.6/▲31.4)
製造	▲ 29.6	▲ 31.4	▲ 25.9	▲ 24.2	▲ 15.8	▲ 16.7	▲ 17.3 (▲12.3/▲27.4)
卸売	▲ 18.8	▲ 25.2	▲ 25.2	▲ 23.0	▲ 20.9	▲ 15.0	▲ 13.4 (▲18.8/▲23.2)
小売	▲ 13.2	▲ 14.4	▲ 12.3	▲ 15.5	▲ 9.5	▲ 9.7	▲ 6.2 (▲9.8/▲9.1)
サービス	▲ 10.6	▲ 10.9	▲ 9.3	▲ 9.3	▲ 8.6	▲ 7.2	▲ 6.0 (▲5.4/▲12.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、▲14.1とほぼ横ばい。産業別にみると、売上が回復傾向にある卸売業、サービス業で過剰感が弱まった。一方、業況の悪化した建設業では過剰感が強まり、賃金・賞与の引下げを行ったとの声が寄せられた。

【先行き見通しD I】全産業合計の先行き見通しをみると、前月と比べ、過剰感は横ばいとなる見通し。産業別にみると、建設業でほぼ横ばい、卸売業、小売業の2業種で過剰感が弱まる見通し。

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
 () 内左側(網かけ)は前月(3月)の先行き見通しD I
 () 内右側は昨年4月の先行き見通しD I

【2010年4月の景気キーワード】

○仕入れ価格の上昇への懸念

春先の天候不順による野菜等の仕入れ価格の上昇、原油・原材料価格の上昇による悪影響を訴える声が多く寄せられた。

- ・「材料価格が上昇しても、転嫁できないどころか受注金額が下落している」（古河・電気工事業）
- ・「受注量は増加傾向であるが、材料価格が急騰している。値上がり分を販売価格に転嫁できそうになく、収益が圧迫されそう」（佐野・金属加工機械製造業）
- ・「天候不順による野菜価格の上昇や、ヨーロッパからの食材の輸入が空港閉鎖により滞っていることの影響が出ている」（伊万里・食堂、レストラン）
- ・「原材料価格が5月より大幅に上昇することが決まっており、それを製品価格に転嫁できるかが問題である」（桑名・鉄素形材製造業）

○根強い消費者の低価格志向

宝飾品などの一部高額品の売上が回復する兆しが出ているものの、消費者の低価格志向は根強く、購入単価の低迷が続いているとの声が多い。

- ・「消費は依然として冷え込んでおり、価格に非常に敏感である。競合店も価格に対して敏感で、毎日1円2円を争う状況である」（蕨・総合スーパー）
- ・「消費の低迷は依然続いており、低価格商品にどうしても人が流れてしまう」（塩尻・商店街）
- ・「消費者の財布のひもが固い状況が続いており、値上げができる状況にない」（倉敷・パン・菓子製造業）

○依然として厳しい雇用情勢

業況が改善傾向にあり、優秀な人材を確保したいという声はあるものの、雇用情勢は厳しいという声が根強い。

- ・「雇用維持の方策として、平成22年度の定期昇給を行わないことにした」（秋田・農畜産物・水産物卸売業）
- ・「受注量は徐々に上がってはいるが、微増であり、まだ従業員の雇用調整をしている状況」（銚子・その他の輸送用機械器具製造業）
- ・「今年度の採用予定はない。雇用維持のため派遣職員で対応している」（橿原・旅館）

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年11月	膨らむ先行き不安	資金繰りの悪化	雇用情勢の悪化
12月	膨らむ先行き不安	デフレの進行	雇用情勢のさらなる悪化
10年1月	続く先行き不安	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢
2月	続く先行き不安	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢
3月	根強い先行き不安	デフレの深刻化	依然として厳しい雇用情勢
4月	仕入れ価格の上昇への懸念	根強い消費者の低価格志向	依然として厳しい雇用情勢

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の（ ）内は、（地名・業種）を示す。

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、中国、四国を除く6地域でマイナス幅が縮小している。業況が悪化した北海道は、建設業を中心に公共工事の大幅な削減、中国、四国では、造船を中心とした製造業の受注の減少が影響したとみられる。

○ ブロック別の向こう3カ月（5～7月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、北海道、中国を除く7地域でマイナス幅が縮小した。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 11月	12月	10年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全 国	▲ 60.0	▲ 63.8	▲ 62.3	▲ 56.2	▲ 49.3	▲ 45.7	▲ 39.1 (▲42.5/▲60.3)
北 海 道	▲ 58.1	▲ 48.9	▲ 47.7	▲ 42.7	▲ 38.8	▲ 44.0	▲ 36.9 (▲35.7/▲51.7)
東 北	▲ 54.5	▲ 60.0	▲ 58.4	▲ 52.9	▲ 48.7	▲ 44.2	▲ 45.1 (▲45.4/▲68.7)
北陸信越	▲ 64.2	▲ 68.7	▲ 71.3	▲ 66.7	▲ 53.7	▲ 46.7	▲ 35.5 (▲36.4/▲60.4)
関 東	▲ 61.1	▲ 62.8	▲ 57.7	▲ 55.8	▲ 44.1	▲ 42.8	▲ 35.6 (▲40.1/▲61.7)
東 海	▲ 65.9	▲ 62.8	▲ 62.5	▲ 47.8	▲ 50.4	▲ 46.2	▲ 41.3 (▲48.1/▲63.0)
近 畿	▲ 59.6	▲ 65.1	▲ 68.1	▲ 59.9	▲ 60.4	▲ 48.1	▲ 37.2 (▲46.4/▲63.7)
中 国	▲ 71.3	▲ 77.7	▲ 71.8	▲ 58.5	▲ 50.5	▲ 53.6	▲ 46.4 (▲41.9/▲58.3)
四 国	▲ 50.8	▲ 54.5	▲ 59.7	▲ 53.2	▲ 36.9	▲ 41.5	▲ 39.0 (▲41.8/▲41.3)
九 州	▲ 53.9	▲ 67.9	▲ 63.9	▲ 60.3	▲ 59.0	▲ 48.9	▲ 44.0 (▲47.8/▲64.2)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

() 内左側（網かけ）は前月（3月）の先行き見通しD I

() 内右側は昨年4月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・「本年度の公共事業の大幅な削減は、建設業界にとって重大な岐路になると思われる」（一般土木建築工事業） ・「今年は本州大手のディスカウント店の出店が続いており、価格競争が一段と激しくなると予想している」（百貨店） ・「JAL道内発着便の廃止、減便等による道内への来訪客の減少が懸念される」（旅館）
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・「天候不順による影響もあり、衣料品を中心に春物商品の動きが鈍かった」（百貨店） ・「相変わらず苦戦しているが、先行き見通しはやや明るい」（織物業） ・「入学式等もあり、上旬は好調だったが、中旬に入ってからまた客足が止まっている」（理容）
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> ・「徐々に仕事量は増えてきており、売上増加につながっているが、鉄の価格上昇がコストアップを招いており、採算が取れなくなっている」（金属加工機械製造業） ・「昨年に比べ売上ベースで80～85%の水準まで戻ってきているが、単価が下がっており100%回復には至らない」（電子部品製造業）
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・「例年になく天候不順による寒暖の差が激しく、消費低迷の大きな要因となっている」（商店街） ・「業界全体の宿泊稼働率は悪化しているが、静岡空港開港により、一部の宿泊施設では外国人の宿泊者が増加している」（旅館） ・「取引先よりコストダウンの協力要請がある半面、材料費は上昇傾向にある」（一般産業用機械・装置製造業） ・「公共工事・民間工事ともに景気の悪化をもろに受け、市内でも建設業界は一番の不況といっても過言ではない」（建築工事業）
東海	<ul style="list-style-type: none"> ・「依然として客単価、客数の減少に歯止めがかからず、競合店を含め更なる値下げ競争の懸念が強く、共倒れの危険性がある」（百貨店） ・「自動車関連業種については低位ではあるが、業況が回復基調である」（自動車・同附属品製造業）
近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・「高速料金が改定されると、近距離輸送中心であるため料金アップが見込まれるが、得意先がその分の価格転嫁を認めてくれるか分からない」（運送業） ・「一部高額商品（宝飾品・特選品）の売上が回復しつつあるものの、衣料品は気温の影響等で依然厳しい」（百貨店） ・「宿泊、料理ともに前年同月と比較して好調。5月の大型連休に期待している」（旅館）
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・「日照不足により品物の供給が不安定になっているため、今後の見通しが立てにくい。」（農畜産・水産物卸売業） ・「来客数の減少は相変わらず続いている。野菜の高騰にも頭を痛めている店が多い」（食堂、レストラン） ・「1年間新造船の受注がない」（船舶製造・修理業）
四国	<ul style="list-style-type: none"> ・「NHK大河ドラマ「龍馬伝」の効果が少し見え始め、団体ツアー客が来るようになってきている」（食堂、レストラン） ・「高速道路料金が高くなる見通しは残念」（旅館） ・「景気動向は国の指標では底を打ったと言われているが、運搬機等の業種においては一段と厳しさが増している事業所がほとんど」（一般産業用機械・装置製造業）
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共事業費が削減されたが、土木業界は事業のほとんどを公共事業が占めており、ますます経営が厳しくなっている」（一般土木建築工事業） ・「再開発ビルがオープンして、人通りは増加傾向だが、小売業の厳しさは変わらない」（商店街） ・「会社関係での接待がなくなり、個人（友人同士）での飲み会が多くなったため、客単価が減少している」（食堂、レストラン）